

フネンパイプシリーズ
フネン耐火被覆発泡三層管 (FPRF-VP)
(リサイクル管)

FUNEN

本製品は受注生産品です。予め納期をご確認のうえ、ご発注ください。

フネン耐火被覆発泡三層管 (FPRF-VP)

塩ビリサイクル材を内管とした環境にやさしい耐火二層管「フネン耐火被覆発泡三層管」。

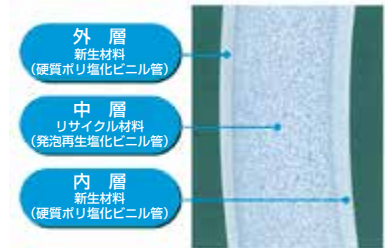
- ・グリーン購入法に定める特定調達品目(公共工事)
- ・国土交通省「公共建築工事標準仕様書」に記載されている「リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管」を内管に使用しています。



● 用途

- ➡ 建物の排水管用、付属する通気管用
- ➡ 換気管等の無圧配管用

被覆内管構造



● 特長

安心・安全・信頼の耐火二層管

耐火二層管は、塩ビ管の特長である耐腐食性・耐久性と、独自の二層構造により火災時の煙や有害ガスの漏洩を防ぐ優れた排水管として、半世紀にわたりさまざまな建物にご採用いただいております。

リサイクル&エコロジー

塩ビリサイクル材を発泡させた中間層を、新しい硬質ポリ塩化ビニルでサンドイッチし、三層構造とした「グリーン購入法」に記載の「発泡三層管」を内管に使用した環境にやさしいパイプです。

高機能&省メンテナンス

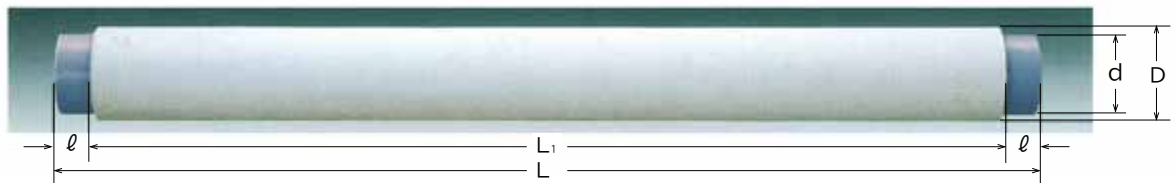
一般のフネンパイプと同じく、施工が容易で流水性能も良く、経年的なスライム・スケール等の付着もほとんどありません。

● 規格

- JIS K 9798 : 2006 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管)

● 製品規格

■ フネン耐火被覆発泡三層管 (FPRF-VP)



定尺管

(単位 mm)

呼び径	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管				繊維混入モルタル管			挿入寸法	重量 (kg)
	基本寸法外径 d	内径	厚さ	長さ L	近似外径 D	厚さ	長さ L ₁		
40×2,000	48	40	3.6	2,044	61	6.0	2,000	22	3.5
50×2,000	60	51	4.1	2,050	73	6.0	2,000	25	4.7
65×2,000	76	67	4.1	2,070	89	6.0	2,000	35	5.9
75×2,000	89	77	5.5	2,080	102	6.0	2,000	40	7.7
100×2,000	114	100	6.6	2,100	129	6.5	2,000	50	11.4
125×2,000	140	125	7.0	2,130	156	7.0	2,000	65	14.1
150×2,000	165	146	8.9	2,160	183	7.5	2,000	80	20.0

注：継手は従来の「フネン管継手」をお使いください。

● 物性特長

軽量で優れた施工性

内管はVP管と比べ約40%も軽量。取り扱いや施工がラクに行えます。

内管1mあたりの質量比較 単位：kg/m

呼び径	発泡三層管	VP管
50	0.64	1.12
100	1.95	3.41
150	3.84	6.70

結露対策にも有効

熱伝導率が小さく、VP管に比べて結露が発生しにくくなっています。

DV継手が使用可能

VP管と寸法が同じですので、DV継手そのまま使用できます。

優れた耐薬品性・水理特性

管の内外層には新生の塩ビ樹脂を使用していますので、VP管と同じく耐薬品性・水理特性に優れています。

熱伸縮による負荷を軽減

熱膨張力（軸方向）がVP管と比べて小さいため、熱伸縮による接合部への負荷を軽減します。

単位： $\times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$

線膨張係数比較	
発泡三層管	VP管
5.7	7.0

無圧管としての強度は十分

偏平強度はVU管の約7倍、破壊水圧はVU管と同等です。（ $\phi 100$ ）

	発泡三層管	VU管
偏平強度*	15.1 kN/m	2.1 kN/m
破壊水圧	3.0 MPa	3.1 MPa

※偏平強度試験は圧縮速度10mm/min



施工・保管・取扱い上の注意事項

- 運搬・運搬や取扱いに際しては、衝撃を与えたり落下させないでください。
- 保管・管は屋内に保管するか、やむを得ず屋外に保管する場合はシートなどで覆って直射日光や雨水を避けてください。
- 取扱・焚火やトーチランプの火、工事用照明ランプなどを近づけないでください。管が変形したり、炭化する恐れがあります。
 - 管はエーテル、ケトン、フェノール類、炭化水素などの有機溶剤には膨潤や亀裂を起こしますので、触れないようにしてください。とくに建築配管では塗料（シンナー希釈剤を含む）やクレオソート（木材防腐剤）、殺虫剤、白蟻駆除剤などは直接または間接的（蒸気ガス）にも避けてください。
 - 残材や廃材は工事現場などで燃やさないでください。
- 施工・圧力がかかる管路には使用しないでください。
 - 60℃以上の流体は流さないようにしてください。
 - 温度変化による伸縮（継手部に大きな軸力が作用し、管が破損する場合があります）を吸収するため、管路には原則として伸縮処理（伸縮継手の使用など）を施してください。
 - パイプ切断については、パイプ切断機及び目の粗いのこ刃等による切断は、管端が破損する場合がありますので使用しないでください。
 - 管には直接ねじを切らないでください。
 - その他施工方法等の詳細は、P.122～施工要領のページをご参照ください。